人は輝く為に、生きていく 149

名札の文字が、大きいお店が繁盛する。

文・イラスト 中谷彰宏
text & illustration by Akihiro Nakatani

飲食店のスタッフの名札を見ると、繁盛するお店と、繁盛しないお店が、わかります。

名札の名前の字が大きいお店が、繁盛します。

繁盛しないお店は、名札が大きい割には、字が小さくて読めません。

しかも、立派なメタリック仕様のため、名札が垂れ下がり、お辞儀をしている状態になってしまい、読めません。

オシャレに、アルファベット表記にしているところもあります。

これも、読みにくいです。

一部の業界では、お客様からのストーカー行為を予防するために、あえて名札を読みにくくしています。

飲食店で、ストーカー行為を防ぎたければ、名札を廃止することです。

風俗営業では、本名ではない、源氏名を名乗ることで、ストーカー対策をしています。

お客様に覚えていただくために、名札をつけているのなら、読みやすくすることです。

覚えていただくためなのか、覚えられないようにするためなのか、スタンスを明確にすることが、大切です。

「本日、お客様を担当させていただきます☆※＊です」

聞き取れません。

スタッフ側は、毎日、何百回と名乗っているので、名乗り方が雑になります。

「エレッセーの、どれになさいますか」と、聞かれたことがあります。

「エレッセー」とは、サイズの「L・M・S」のことでした。

「エル・エム・エス」がいつのまにか、「エレッセー」に短縮されてしまうのです。

名前も同じ省略が起こります。

友達同士では、名乗ることが不要なので、自分の名前を明瞭に発音できなくなっています。

就活の面接でも、名前を明瞭に名乗ることができない人は、知らない人に会うことが少ないんだなと判断されて、落とされてしまいます。

繁盛するお店では、自分の名札を持って、明瞭に名前を名乗ります。

お客様は、人につきます。

お店につくのではありません。

名前を知っている人のところに行くのです。

お客様の名前をどんなに覚えても、お客様に名前を覚えてもらわなければ、お客様にまた来ていただくことはできないのです。

名前が聞き取れなかった時、「もう一度」とは聞き返してもらえません。

ただ、もう来なくなるだけです。何よりも、覚えてもらおうとする姿勢が大事なのです。

Profile
1959年生まれ。主な著作に『グズグズしない人の61の習慣』『50代がもっと楽しくなる方法』『頑張らない人は、うまくいく。』他1000冊を超す。
【中谷塾】で講演活動を行う。詳しくは、HPで。
https://an-web.com/